

備北・センター だより

発行所

三次市十日市東三丁目 14-1

三次市福祉保健センター1F

一般社団法人備北地域生活支援協会

備北障害者就業・

生活支援センター

TEL. (0824)-63-1896

発行人：谷口光治

JMS三次工場全景



・まずは、ジェイ・エム・エスの会社概要からお聞かせください。
広島・東京に本社があり大野工場・三次工場・出雲工場・千代田工場の四工場で生産された機器を全国八つのエリア二十九営業所で販売を行っています。
企業全体の従業員数は一五九一名となっております。三次工場では二二二名の方が働いています。

職場拝見

今回は、一九六五年設立で今年六月に五十周年を迎えられた『(株)ジェイ・エム・エス』の三次工場に伺い、木村庶務課長にお話を聞きました。
(株)ジェイ・エム・エスは医療を必要とする人、支える人との架け橋となれるようにディスプレイザブル医療機器の製造販売を行っています。

・生産機器は具体的にどんな物ですか。



注射器各種

輸液輸血分野では輸液・輸血セット、ディスプレイ・注射器、翼状針、輸液ポンプ・シリンジポンプ等。医療用一般用品分野では手術、検査用のゴム手袋、プラスチック手袋、マスクやキャップ、処置用シーツ、手術用ガウン。そのほか血液透析、腹膜透析の機器や装置。循環器分野での装置や機器などの成型、加工、組み付けを行っています。



静脈留置
カテーテル

・障害者の雇用を考えたきっかけはどんなことだったのでしょうか。

社会貢献や法律の規制もありますが、今では障害者を雇用することによるメリットが見えてきています。たとえば障害のある人への改善で全体の効率が上がったり、リスクを考えるうえでより安全を追求し、会社全体で有効なものとなっていきます。障害者の一生懸命取り組んでいる姿勢を見て他の従業員も前向きに取り組むようになっていくなどです。

・障害のある方を雇用されて何か配慮されていることがあればお聞かせください。

特別なことはないのですが、一部階段をスロープにしたり、トイレを洋式に替えたりしています。

これは高齢になられた他の従業員にも喜ばれます。

・これからも障害者雇用を継続されていくための気付きや要望などあればお聞かせください。

実習の制度はお互いを知るうえで非常によいことですので続けていきたい。

採用計画を立てづらい時代になっていきますが、こまめに足を運び情報を共有しながら企業実態を把握いただき、適した人材の情報をお願いします。
・大変忙しい中ありがとうございました。



私たち 羽ばたいています

三次工場に勤務されている六名の障害のある方のうち、六年が経過した平岡さん、一年八ヶ月が経過した土河さん、今年四月入社の川本さんの三名に木村課長を交え話を聞きました。



・皆さんは就労開始からの期間はそれぞれ違いますが、どのような経路で入社したかお伺いします。

・平岡さん…庄原特別支援学校から体験実習を経て卒業後入社をしました。

・土河さん…意見書の診断のときセンターに相談し、就職についてはハローワークから紹介を受けました。

・川本さん…在学中からセンターに登録し、広島で開催された障害者合同面接会に参加したことがきっかけとなりました。

・現在の職務と仕事上で気をつけていること、大変だったことはありませんか。

・平岡さん…材料運搬の作業をしています。
・土河さん…清掃作業をしています。社員の皆さんが気持ちよく作業できるように心がけて清掃しています。

・川本さん…試験用のサンプル作りをしています。

限られた中からサンプルを取ることで失敗しないよう気をつけています。

・仕事を始めて良かったことや変化はありましたか。また、長く続いている要因は何ですか。

・平岡さん…自分が長く続いているのは、職場の人や上司との人間関係がうまくいっていることだと思います。

・土河さん…同じです。
・川本さん…自分はまだ二ヶ月が過ぎたばかりですが、入社前の想像よりは良いです。また、医療機器がどこかで使われているかわかったことは良かったです。

・休日等余暇にやっておられることはありますか。
・川本さん…障害者野球をやっていて五月に試合が済みました。次は秋の



製品サンプル

大会があるので日曜日は練習に参加しています。

・木村課長から皆さんにひとこと。

皆さんまじめであり、仕事もきちんとやってもうえます。会社側も適材適所の配置を心がけていきます。体調に気をつけて今後も頑張ってください。

・ありがとうございます。生活のことでも困りごとがあれば遠慮なくご相談ください。
今後とも体調に気をつけて頑張ってください。

かぜくさの正面から



今回は三次市十日市町にあります、社会福祉法人ナイスタイム 障害者地域活動センター『かぜくさ』を訪問し、末迫所長にお話を聞きました。



・まず最初に、事業所紹介をお願いします。

社会福祉法人ナイスタイム 障害者地域活動支援センター「かぜくさ」は、脳血管障害・内部障害・視覚障害等の中途障害者の方が、出かけていける日中の活動の場として誕生しました。利用者は八割が中途障害者の方たちです。

「かぜくさ」という施設の名前は、県北では身近に生えている雑草の名前からとっています。自らの障害を受け容れ、強くしなやかな「かぜくさ」のように「前向きにプラス思考をもって生きていく」という意味が込められています。利用者の定員は三十名、一日の利用者は十〜十三名。支援するスタッフは三名(内パート一名)です。



紙太鼓作り作業中の皆さん

・活動内容や利用時間はどうなっていますか。

活動内容は
①はがきや名刺の印刷
②郷土民芸品「三次紙太鼓」の製作、販売
③野草茶の製造、販売
④野草茶の製造、販売
野草茶は、三次市役所売店、子育てフリースペースKADOYA、紙屋町シャレオふれ愛プラザでご購入いただけます。作業時間は、十時〜十五時で、休日は土曜日、日曜日、祝日です。

・活動をされる中で、工夫されている点や行事などありますか。

様々な方が利用されるので、お互いを理解しあい、トラブルにならないように気をつけています。十時と三時にはお茶の時間を組み、会話を楽しんでいます。

また、地域の方と一緒に染物教室や酵素作りをして交流を深めています。その他にも、健康福祉まつりや高等専門学校での技能祭へ毎年参加し、紙太鼓や野草茶の販売や、市内の小学校からの依頼を受けて紙太鼓製作指導なども行っています。スポーツでは毎年開かれるフライングディスク大会参加に向けて練習を重ねています。



・今後、どのような事業所を目指していますか。

楽しく時を過ごして、自分らしさを取り戻し元気になる施設を目指しています。

完成品の紙太鼓 (カープ坊や)



・ありがとうございます。



当事者の集い開催

備北障害者就業・生活支援センターは6月15日三次市内で『当事者の集い』を開催した。当日は11人が参加され「仕事をするために必要なこと」をテーマに語り合った。次回は秋に開催を計画しております。

センターの窓

平成二十七年二月以降のセンター職員の研修会などへの参加状況を報告いたします。

①平成二十七年三月十日
場所…広島市

『二十六年度第二回雇用移行推進連絡会議及び精神障害者雇用支援連絡協議会』 一名参加

障害者雇用の現状と雇用移行推進計画実施状況について報告があった。その後意見交換の時間があり大学卒業時の発達障害の疑いのある人への就労支援の取り組みについて等話し合われた。
②平成二十七年五月十八日 場所…庄原市
『健康福祉まつり』
〈働く喜びを支える仲間との交流会を行う。〉

今回は交流会へ五名の参加があり、勤務の状況や継続して勤務するための条件等の意見交換をした。



交流会で座談会の様子

③平成二十七年六月五日
場所…三次市福祉保健センター

『平成二十七年年度障害者自立支援ネットワーク相談支援部会・就労支援部会合同研修会』 五名参加
「生活を支えるく働くことを支える」をテーマに四機関からそれぞれ講演がありその後、質疑・応答があった。

県内ナカポツ連絡会 東部圏域で開催

平成二十七年六月三日、府中市にある福祉交流館「パレットせいわ」三階多目的ホールにおいて、県内七地域の障害者就業・生活支援センターと広島労働局、広島県障害者支援課、広島県雇用労働政策課、広島障害者職業センターから三十八名が集う連絡会があった。

各機関から最近の障害者雇用についての情報提供の後、各センターから相談支援事業所との連携に関してやネットワーク会議取り組みについて情報交換が行なわれた。午後は六グループに別れて、これからのナカポツの役割、支援者のスキルアップ等について話し合いを持った。今回は広島中央圏域が担当となる。

昼食は府中焼きのお好み焼き



センター活動実績 平成27年6月20日現在

●就職者数 189件 (22年4月から累計)

●企業実習 114件 (22年4月から累計)

就職先：食品製造、養卵加工販売、製造業
病院、日用品販売量販店、農業、建設業 etc

編集後記

このところ各地で火山活動も活発化しており、警戒レベルも上がっています。幸いこの地域は活火山がないので安心ですが。

これから水害や体調を崩しやすい季節になります。十分に体調管理に気を配りましょう。

カープが勝てばスカッとするのですね。

(中河)

